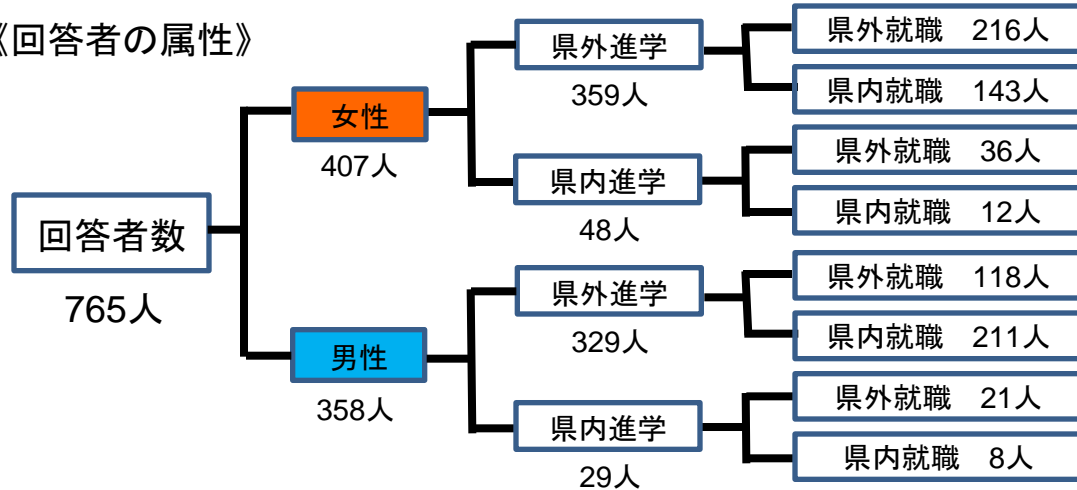


若者のUターンの意向調査 結果概要

東京大学「希望学プロジェクト」との共同により、県内外の若者に対してUターンの意向等を調査

- (1) インターネット調査 (調査期間 H26.9~H26.11)
 目的：進学、就職、Uターンに関する意向を調査
 対象：県内外に在住する本県出身の20~30代の男女
 回答数：765人 (県内374人、県外391人) (約2,500人に調査)

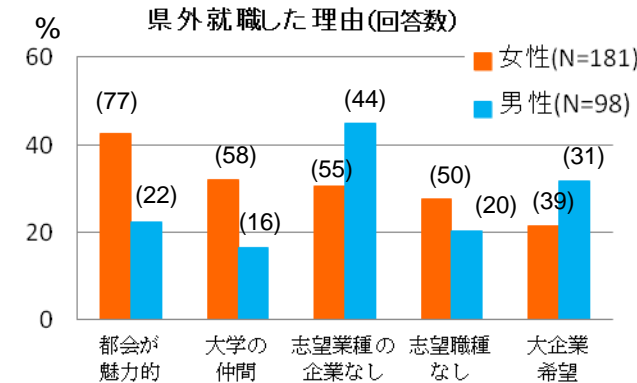
《回答者の属性》



- (2) インタビュー調査 (調査期間 H26.10~H27.2)
 目的：上記調査の補足として、首都圏在住女性に調査
 対象：首都圏に在住する本県出身の20~30代女性
 回答数：102人

【2 県外就職者の動向(就職理由)】

(1) インターネット調査



- ・女性は、都会の魅力や大学の仲間がいるため県外就職した、という人が多い
- ・男性は、県内に希望する業種の企業がないため県外に出た、という人が多い

(2) インタビュー調査

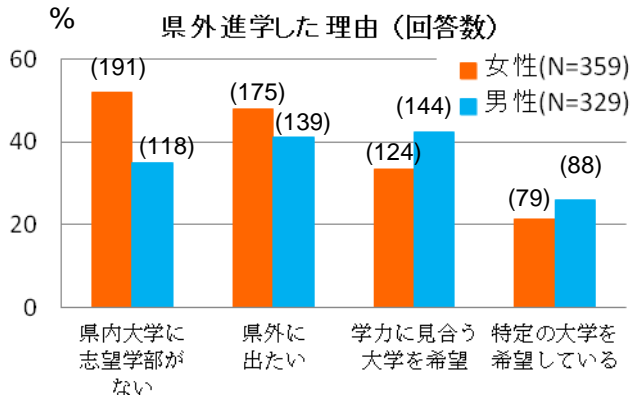
- ・福井の企業の具体的な仕事内容がわからない
- ・幅広い職種・地域で男性同様にキャリアを積むことを望んでいる
- ・大卒女性に適した総合職に就きたいが、県内には少ない

(3) 調査結果からわかること

- ・具体的な仕事内容に関する情報提供が不足
- ・女性が希望する業種や職種の企業の誘致が必要

【1 県外進学者の動向】

(1) インターネット調査



- ・女性は、県内の大学に希望する学部(人文系など)がないため県外に出た、という人が多い
- ・男性は、学力に見合う大学に入学するため県外に進学した、という人が多い

(2) インタビュー調査

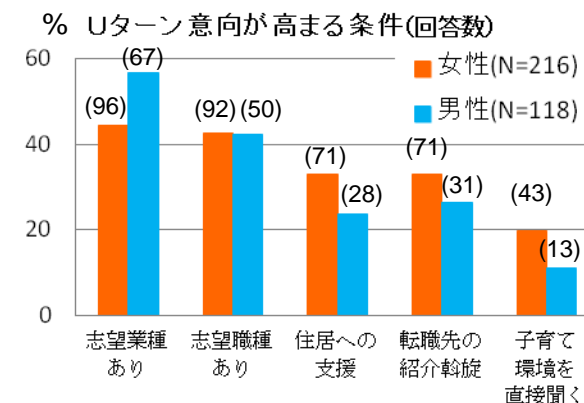
- ・秋田国際教養大学のような特徴がある大学は魅力的
- ・都内の大学との単位互換ができれば県内大学も選択肢に入る

(3) 調査結果からわかること

- ・奨学金や学費の支援、家賃の助成など、経済的負担の軽減が有効
- ・県内進学を促すためには、県内大学に際立った特色が必要
- ・学部の拡充や都市部の大学との連携等のニーズへの対応が必要

【3 県外就職者の動向(Uターン意向)】

(1) インターネット調査



- ・男女とも、希望する業種や職種があるかどうかをUターンの条件として重視
- ・女性は、男性に比べて子育て環境の良さを求める人が多い

(2) インタビュー調査

- ・福井にUターンすると仕事や生活がどう変化するか不安を感じる
- ・30代になると、大学時代の友人との縁も薄くなるので、福井の男性と結婚し子育て環境の良い福井にUターンしたい

(3) 調査結果からわかること

- ・移住により収入や居住環境がどう変わるか、具体的な提示が有効
- ・結婚も30代前半のアプローチが有効